

総務省

ネットワークの中立性に関する懇談会

Apple Inc. 政策企画部長 藤田 一夫

アップル社の見解

- ネット市場に対する干渉により公平公正な競争環境を阻害する要素は支持出来ない
- ネットに対しての制限によって負の作用が正の作用より大であると考え

iTunesと日本での配信事業

- iTunesは世界で最大のデジタルコンテンツサービスであるが米国を除けば日本を含め浸透度は発展途上でありネットに制限を加えた時に合法著作物流通促進への阻害要因とならないか
- 合法的な配信サービスが未だ未成熟な日本で米国と同様な議論をする必要性があるのか否か

お釈迦様と孫悟空

- アップル社などコンテンツレーヤーを構成する事業会社にとって通信業者は巨大な存在で競争力は不均衡である

事例I インターネットブラウザ

- インターネットブラウザ市場勃興期にNetscape NavigatorがOSレイヤーをほぼ独占した某社がブラウザをバンドルした結果、公正な競争は維持出来なかった事は示唆に富む

事例2 航空業界での新規参入排除

- 大手日本の航空会社2社による新規航空会社へのダンピング戦略による排除戦略
- その結果新規参入航空会社は経営難に陥った
- 上記により日本の空は米国と違い自由競争市場とは言い難い状況に有り、結果として消費者の選択肢を狭めた

少子高齢化と生産効率性

- IT業界は今世紀の最も成長性の高い産業の一つであり人口減少が進行する日本は他国より規制緩和を促進し効率性向上を目指し国際競争力を強化すべきである。ネットへの介入はこれを棄損するのではないか

価格決定

- 消費者は既にサービスの質により複数の料金体系の中から選択している。よって通信会社は応分負担を既に利用者に課している。
- にも関わらず、オペレーションが効率的に機能していないのなら、それは価格決定メカニズムと当初の事業計画策定に問題があったのではないか

- インターネットはオープンで中立的な制度であり技術革新、経済成長、社会的なコミュニケーションを生み出す道具であり、独創性を促すものである。その結果、ネットはVoIPから家庭内無線ネットワーク、ブログに至る数多くの予測のつかないものを提供している。。。 (著者抄訳)

ヴィトン G. サーフ

“インターネットの父”